

『となり街の図書館』

豊橋市牟呂町 倉内 由奈

コンビニでホットコーヒーを二つ買い、夫の運転する車でとなり街の図書館へ向かう。片道四十五分のちょっとしたドライブ。ここ何年か続く私たちが夫婦の休日の過ごし方である。

初めてこの図書館に行ったのは、子どもの絵本を探すためだった。というのは、きつと口実だ。新しい図書館の、新しい本の香りの中、自分自身が気分転換しなかったのだ。三十代半ば、子育てや夫婦関係など、様々なことに行き詰まりを感じてもがいていた時期だった。

「家族に美味しいごはんや子どもの喜ぶお菓子を作りたい、庭を木々や季節の花で彩りたい、イライラせずに子ども達の話に耳を傾けたい、夫と穏やかな時間を過ごしたい…」

図書館の本棚に、幸せになるヒントを探し求めていたように思う。

あれから二十年。図書館のたくさんの本は、私の狭い視野や小さな世界を広げてくれた。そして、私に行動する勇気を与え続けてくれた。また、この空間で本を読んでいると、不思議と心が満たされていく。自分のためだけの時間がここにあるようで嬉しい。

今、子ども達は成人し、夫婦だけの時間が充分にある。今の私には、初めてとなり街の図書館を訪れた時には想像できなかった、平穏な毎日がある。そして、次の休日を心待ちにしている。